

研 修 報 告 書

令和 7 年 2 月 20 日

長浜市議会議長 高山 亨様

長浜市議会議員 岩川 信子

私が出席した次の研修の結果について報告します。

記

1. 研修名 地方議員研修会
2. 研修日時 令和 7 年 2 月 1 2 日 (水)
3. 研修場所 京都 J Aビル 地下 1 階 1 0 5 室
4. 研修テーマ 自治体病院の基礎と課題
5. 講師 城西大学経営学部 伊関 友伸教授
6. 調査内容感想等

・研修の目的

研修では、自治体病院の基礎知識を学び経営の課題について理解を示し、特に新型コロナウイルス対応を含む自治体病院の「医療の砦」としての役割、経営強化の視点、財政支援の仕組みについて具体的な解説があり。伊関教授は、長浜市の医療に精通しておられ、実情に即した具体的な事例を交えたご指導を頂く事ができるかと、これにより、長浜市の自治体病院が直面する課題を正確に把握し、今後の医療政策や病院運営の改善に向けた対策検討の基礎を築くことを目的としています。

講演風景



長 浜 市 議 会

・研修の内容

(1) 自治体病院の役割と重要性

・地域医療を支える公共病院の役割と医療の砦」論

自治体病院は、地域住民の健康を支える重要な存在であり、特に採算が取れにくい救急医療やへき地医療、高齢者医療などを担っている。民間病院では対応が難しい分野を補完することで、医療の地域格差をなくす役割を果たしている。また、新型コロナウイルス感染の流行時、民間病院では受け入れを限定するケースが多い中、自治体病院は積極的に患者を受け入れ、医療崩壊を防ぐ役割を果たした。これは、自治体病院が感染症対応などの公的責任を担う必要生を示しており、今後もこの機能を維持・強化する必要があると指摘された。

・長浜市における自治体病院の重要性

長浜市の医療体制は、地域特性の人口動態を反映したものとなっており、自治体病院が果たす役割が特に大きい。都市部と比べて医療資源が限られる中で自治体病院が適切に機能するところが住民の健康を守る鍵となる。

(2) 自治体病院が抱える主な課題

・①財政難と経営の持続可能性

自治体病院は多くが赤字経営となっており、財政面での持続可能な大きな課題となっている。特に、医療費抑制政策や診療報酬制度の影響を受け、病院経営の厳しさが増している。

・②医療人材の確保と定着

地方の自治体病院では、医師や看護師の確保が厳しく、特に専門医の不足が深刻である。長浜市でも、医療人材の確保が今後の課題である。

・③病医院の経営形態と運営の適正化

市が考える指定管理者制度とは、自治体が病院の運営を民間企業や医療法人に委託する仕組みだが、長浜市の地域医療の仕組みを考えるとこの指定管理者制度は適さないとの伊関教授は以前から述べておられた。

以下の点を挙げられている。

- ・長浜市の自治体病院は、地域住民の健康を支える公共性の高い医療機関で、単なる収益授業とは異なる。
- ・指定管理制度に移行すると、病院の方針が短期的な収益重視になりやすく、地域医療の持続的な発展の妨げになる可能性がある。
- ・自治体病院の職員は、指定管理制度になると雇用の継続は難しく一時的な、解雇となり退職金の支払いが発生し、市の財政負担が増加する可能性がある。

(3) 経営強化ガイドラインとバッファの役割

伊関教授は、自治体病院は単なる経営効率化ではなく、「バッファ（緩衝材）」としての機能を持つべきと述べた。具体的には、

- ・民間病院と競合する分野もあり、適切な役割分担が求められる。また、民間病院と連携しながら地域医療をさせる仕組みづくりが必要となる。

バッファとしての医療



- ・新興感染症や災害など突発的な事件の対応
- ・後期高齢者の急増に対応した医療の提供
- ・地域の医療人材不足への対応（待遇を良くする）
- ・効率的で質の高い医療の実現（人間ドックを充実するなど）

単なる採算性の追求ではなく、持続可能な運営を目指す必要がある。

(4) 財政支援の仕組みと自治体病院の運営

自治体病院の経営を安定化させるためには、地方財政の仕組みを適切に活用することが重要であることをのべられていた。

- ・ 不採算地区の特別交付税：医療提供が困難な地域では、特別交付税を活用し自治体病院の運営を支援することが可能。
- ・ 過疎債の活用：過疎債地域における医療提供を維持するために、過疎債（過疎地域自立促進特別交付金）を自治体の設備更新や人材確保にあてる。
- ・ 地方交付税（普通交付税）の適正配分：医療機関の運営において、自治体が地方交付税を適切に配分し自治体病院の安定運営を支える必要がある。

- ・ 研修の結果を本市にどのように反映させるか

今回の研修を通じて、自治体病院が果たす役割の大きさとともに、経営や運営における多くの課題を改めて認識することができた。

自治体病院は、地域住民の生命と健康を守る「医療の砦」としての役割をはたしており、単なる経営効率化ではなく、地域医療を維持するための戦略的な運営が必要である。

特に長浜市における自治体病院の適切な運営モデルの重要性について深く学ぶ機会となった。長浜市の湖北病院では、老朽化が進んでおり、過疎債を活用し、早急に建て替えるべきと私は意見を述べてきた。今回の研修で参考となる病院の一例として、香川県三豊市立みとよ市民病院が紹介された。この病院は、会派の視察でも訪れた病院であり、病室の基本オール個室化という先進的な取り組みを行っている。

長浜市においても、今後の人口減少や高齢化の進行を見据え、湖北病院の再建時には一般病棟・療養病棟に加え、地域包括ケア病棟も多く設置する必要があると考えている。このような医療体制を整えることで、長浜市の住民が住み慣れた地域で安心して医療を受けられる環境を整備する事ができる。

また、長浜市病院財政の健全化を測る、将来負担率を講演中お話しされて、現在の長浜市の将来負担率をみると全国的また、他市と比較しても長浜市は低く、健全な経営がなされているとの説明を受けました。この健全な運営を維持していく上でも、今後の医療施設の整備や運営のあり方を検討し、最適な形で地域医療を支えていく事を求めているかなければならない！

長 浜 市 に お け る 自 治 体 病 院 の 運 営 に つ い て

「指定管理制度がそぐわない」理由についても、納得できる説明があった。
自治体病院の運営は公的機関として主体性を持ち、地域に根差した安定した医療提供を行うことが重要であると強く認識した。短期的な経営効率の向上のみを目的とするのではなく、持続可能で地域住民が安心できる医療体制の確立が最優先である。

また、高度な医療設備と専門医の確保こそが、自治体にとって大きな財産である。これからも、長浜の自治体病院が健全に運営されるよう、政策提言や働きかけを続けていきたい。今回の研修で受けた知見を活かし、地域医療の未来を見据えた取り組みを進めていく所存である。